第　　回　校内研究　授業記録

No.　1

令和元年　　９月　　２６日　５校時
第３学年　２組

単元名
授業者　　原　豊
記録者　　菅井　歩美

時間	授業者の様子（発問・指示・援助）	児童の様子
	号令 「前にアンケートをとりましたね。」 「仲のよい友達に『宿題を見せて。』と言われたら見せますか。」	
	「バロメーターに１号車から貼って下さい。」	自分の意見に合わせて名札をはっていく。 （アンケートがもとなのでスムーズ）
	「こんな結果になりました。何人かの人に考えを聞いてみたいと思います。」	【結果】 （見せる）２人 「教えないと、友達がなくなるかもしれないから。」 （まん中）１人 「自分でやらないと、自分のためにならないけど見せるという気持ちもある。」 （見せない）３２人 「友達ががんばっていたのなら、その友達のためにならないから。」
	範読をする。	
	「話の内容は、わかりましたか。わかった人は、本を閉じましょう。」	
	「誰が出てきましたか。」	「実さん。」 「ぼく。」
	「主には、実さんと僕のお話ですね。」	「先生。」
	「朝、学校に来た時、僕はどうしたのですか。」	「宿題を忘れた。」
	「その時の僕の気持ちは、どんな気持ちだったでしょう。」	「実さんに教えてもらえばいいや。」 「びっくりした。」 「実さんに教えてもらえば何とかなる。」 「仲よし。ボールの投げ方も教えたし、教えてくれるだろう。」 「大丈夫かな。」
	「どういうこと。」	「怒られるかな。」 「心配な気持ち。」

時間	授業者の様子（発問・指示・援助）	児童の様子
		「教えてもらえば、忘れたことにならない。」 「算数が得意だし、教えてもらおう。」
13：40	「僕は結局どうしたの。」	「教えてもらえなかった。」
	「『自分でやれよ。』　と言われた僕はどう思ったかな。」	「なんで。」 「自分でやるのはいやだな。」 「友達だろう。」 「どうして教えてくれないのだろう。」 「教えたのに。」 「教えてくれた方が早いのに。」 「何か理由があるんじゃないかな。」 「自分が忘れたのが悪い。」 「自分も教えてあげない。」 「仲よしなのに、ひどい。」 「実なら教えてくれると思ったのに。」 「ばかもん。」 「教えてくれないわけがない。」
13：47	「ここまで整理します。僕は『昨日教えてあげたから教えてくれる。』と思っていたのに『自分でやれよ。』と言われて教えてもらえませんでした。家に帰ってから、僕は実の言葉が気になってきました。」 「『仲よしだから、なお教えられないよ。』についてワークシートに考えを書いて発表してもらいます。」	
13：50	ワークシートの配付 「僕はどんなことを考えていたのでしょうか。」	
13：58	「何人かの人にお話をしてもらいたいと思います。」	「実にあやまらなければ。自分でやるものなのに。」 「『いじわるだな。』という気持ちと、『でも、教えてもらうと自分のためにならない。』という 2 つの気持ちがある。」 「友達だからこそ、自分（ぼく）の力を出して欲しいんだ。何も考えずに言っちゃった。ごめんね。カーブのお返しかな。」 「どういうことなんだろう。」 「実もそういう経験があったのかも。」 「あんな態度をとって申し訳なかった。」

時間	授業者の様子（発問・指示・援助）	児童の様子
		「もしかして、ぼくのため。せっかく、ぼくのことを考えてくれたのに、仲よしだから。いじわるではなかったんだ。」 「ぼくがやった方が、ぼくのためになる。」 「仲よしだから、言ってくれたのかな。」 「友達は助け合うものじゃないの。」 「カーブを教えたからって、いばっちゃいけなかった。」 「宿題は自分でやるものだ。」
14：05	「教材文は、ここでいったん終わりにします。最初のマグネットの考えが変わった人は、移して下さい。	【７人移動する】 「ヒントくらいは教える。」 「最初は教えてあげない。相手が傷ついたり、嫌な気持ちになったりするかもしれないから、教えてあげたい気持ちもある。」 「見せないと、相手も傷つくから。」
14:０９	「今日やったことをまとめます。友達が困っていたら、『手助けはしない』ということがいいということかな。」	【 「大変なことは、一人では大変。」 「手助けをしない」

時間	授業者の様子（発問・指示・援助）	No. 児童の様子

		No.
時間	授業者の様子（発問・指示・援助）	児童の様子

		No.
時間	授業者の様子（発問・指示・援助）	児童の様子